

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 基礎工学部・基礎工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 英語のみで修了できるコース数を大幅に増加させ、全領域(前期・後期合せて 22)で修了できることになったこと。また、日本人が英語による授業科目のみで修了可能な学位プログラム数も増えつつあるなどの成果があったことが評価できる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 附属スピントロニクス学術連携研究教育センターを設置、ネットワーク型の研究を推進し、240 件の論文発表、84 件の共同研究プロジェクト実施という成果を上げたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【広報】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 広報企画推進室の教員を中心に、Web 広報 WG、オープンキャンパス WG、学部説明会 WG、大学院説明会 WG を設置し広報を強化した。部局の Web を改善し、受験生を主な対象とする Web スマートフォン版を立上げたことが評価できる。